

2023年4月28日
川崎汽船株式会社

取締役会の実効性評価について

当社では、持続的な成長と中長期的な企業価値向上のためには、コーポレートガバナンスが有効に機能することが必須であるとの考えから、毎年取締役会の実効性について分析・評価を行い、その結果を適時・適切に開示しています。

この度、2022年度取締役会について実効性評価を実施し、その結果がまとまりましたので、以下のとおり概要を報告いたします。

記

1. 取締役会実効性評価の方法

本年度は、全取締役・監査役を対象としたアンケートの結果をもとに取締役会で討議し、自己評価を行いました。

<インタビューの主な項目>

- ・ 取締役会の構成
- ・ 取締役会の運営
- ・ 取締役会の議論
- ・ 取締役会のモニタリング機能
- ・ 社外取締役のパフォーマンス
- ・ 株主・投資家との対話

2. 取締役会の実効性に関する評価結果の概要

全体的な評点は前年度から上がり、取締役会は概ね実効的に機能していると評価します。以下の点では特に評点もしくは前年度からの改善度合いが高く、取締役会の機能発揮に繋がっていると考えます。

- ・ 十分な審議時間と自由闊達で建設的な議論
- ・ 前年度の実効性評価課題を踏まえた議論と課題の改善
- ・ グループ全体の潜在的リスクと対処方法、危機管理体制等についての議論
- ・ 経営計画の進捗状況のフォローアップ
- ・ 株主・投資家との建設的な対話及び取締役会へのフィードバック
- ・ 中長期の企業価値最大化を動機づける業績連動報酬の議論・設定
- ・ 指名諮問委員会によるサクセッションプラン、選定基準策定に向けた十分な審議

一方で、データやデジタル技術の活用などの項目においては議論を深める余地があることが認識されました。これらの点は今後の取組み課題として明記し、ガバナンスのさらなる向上を図ってまいります。

前年度の実効性評価において課題とした各項目については、以下のように議論・取組みがなされていると評価されました。

<実効性改善に向けた取り組みの進捗状況>

- ・ 経営計画の進捗状況のフォローアップ
評価は昨年より改善しました。中期経営計画に沿ってテーマを絞った取締役会の運営がより重要になるとの指摘もあり、計画の達成に向けフォローアップを継続します。
- ・ 中長期的な資本政策に関する議論
中期経営計画の策定・実行を進めるなかで、資本政策について議論を深めることができたとの評価がありました。引き続き議論が必要な課題であると認識しています。
- ・ グループガバナンスの強化
特にコンテナ船事業統合会社（Ocean Network Express 社）のモニタリングとガバナンス強化の重要性が改めて認識され議論されました。
- ・ 株主との建設的な対話
評点は前回を大幅に上回り、株主・投資家との対話で得られた様々な意見や見解は取締役会で定期的に共有され、資本政策などにおいてもそれらを踏まえた施策が心掛けられているという評価がありました。
- ・ サクセッションプラン策定プロセスの明確化
指名諮問委員会によって十分な審議が行われているという評価がなされました。

3. 上記分析・評価結果を踏まえた今後の対応

より実効性の高い取締役会の実現に向けて、以下に取り組むべき課題とし、不断の改善を行ってまいります。

- ・ 経営計画の進捗状況のフォローアップ（継続課題）
- ・ 中長期的な資本政策に関する検討（継続課題）
- ・ グループガバナンスの強化（継続課題）
- ・ データとデジタル技術を用いた価値の創出

以上